

教科	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2
学科	全科	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	家庭基礎 気づく力 築く未来 (実教出版)				
副教材など					

1. 科目の目的

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。また、未来社会につながるSDGsについて学び、より大きな視点で考え、知識や情報をもとに解決策を模索できる力をつける。

2. 授業の内容と進め方

家庭生活に関する各分野について、次の流れで学習を進めます。

- ①各分野に関する項目について、まず現在の自分の生活を見つめます。
- ②それぞれの分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得します。
- ③自分の現在・将来をよりよくするためにはどうすればよいのかを考えます。
- ④実験・実習を取り入れ、より確実な知識及び技術の定着を目指します。

3. 学習する上での留意点

家庭に関する諸問題について関心を持って学習に取り組んでください。家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な技術を意欲的に身に付けましょう。さらに、問題の解決を目指して思考を深め、創意工夫する態度を養いましょう。最終的には各自が習得した知識と技術を活用して適切に判断し、それぞれの家庭で実践するよう心がけてください。

4. 課題等について

必要に応じて課します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。また、実習を通して基礎的・基本的な技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けているか。

6. 評価の方法

評価については、以下の項目を総合的に判断する。

- ・定期考査(年間3回)の結果をもとに学習内容の理解度、定着度を評価。
- ・実習への取り組みと作品および実施記録の内容・提出状況を評価。
- ・授業プリントの提出および記入状況を評価。
- ・学習意欲(出席状況・忘れ物・発表内容など)、学習態度を評価。

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	「家庭基礎」を学ぶにあたって 第1章 これからの人生について考えてみよう 第2章 自分らしい生き方と家族 1. 自立と共生 2. ライフキャリア 3. 共に生きる家族 4. 家族に関する法律	○家庭基礎で何を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。 ○各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ○自立と共生の意味を理解し、自分自身と社会のあり方を考える。 ○職業労働と家事労働について理解する。 ○多様化する家族形態について理解する。 ○家族に関する法律を知り、社会とのつながりを理解する。	定期考査 ワークシート 実習作品 実習記録 VTR視聴記録 ファイル提出 授業中の取り組み状況等
	5	第7章 衣生活をつくる 1. 人と衣服のかかわり 2. 衣服の素材の種類と特徴 3. 衣服の選択から管理まで 4. 持続可能な衣生活をつくる 5. 衣服の構造・デザイン (被服製作<小物・基礎縫>)	○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い絵表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 ○小物製作を通して基礎的な技術の習得と製作の楽しさを体験する。	
	6	期末考査		
	7	第6章 食生活をつくる 1. 日本の食文化の形成 2. 私たちの食生活	○日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ○日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。	
二 学 期	9	3. 栄養と食品のかかわり 4. 食品の選び方と安全 5. 食事の計画と調理 6. これからの食生活を考える	○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ○基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ○生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。	VTR視聴記録 ファイル提出 授業中の取り組み状況等
	10	(調理実習①)		
	11	第4章 高齢者とかかわる 第5章 社会とかかわる 1. 支えあって生きる 2. 共生社会を生きる (調理実習②)	○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ○多様な人のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解しユニバーサルデザインについて考える。	
	12	第3章 子どもとかかわる 1. 子どもとは 2. 子どもの発達 3. 子どもの生活 4. 子どもをはぐくむ 5. 子どものための社会福祉 期末考査	○子どもの育つ力と発達段階を知る。 ○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ○遊び、基本的な生活習慣、食事、健康管理について学ぶ。 ○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。	
三 学 期	1	第9章 消費行動を考える 1. 消費行動と意思決定 2. 消費生活の現状と課題 3. 消費者の権利と責任 4. ライフスタイルと環境	○消費行動における自分の意思決定の重要性を理解する。 ○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用等を学習し消費者として適切な判断ができるようにする。 ○大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。	定期考査 ワークシート 実習作品 実習記録 VTR視聴記録 ファイル提出 授業中の取り組み状況等
	2	(調理実習③)		
	3	第10章 経済的に自立する 1. 暮らしと経済 期末考査	○家計の構造について理解し、適切な家計管理について考える。	